

代々引き継がれてきた「技」と「力」

## 傘鉾持ち 本河内 太田涼棟梁

伝承したい  
長崎の技☆

傘鉾は各踊町に備えられ、町の歴史を表すものです。その傘鉾の担ぎ手は市内6地区(岩屋、川平、三川、柳谷、田手原、本河内)からなる「長崎傘鉾組合」が各踊町から依頼を受け出演しています。

その中で一番の若手、本河内の太田涼棟梁にお話を伺いました。

Q: 傘鉾持ちを始められたのは?

A: 22歳から持ち始め、32歳で父から受け継ぎ、棟梁となりました。

Q: 太田さんが率いる本河内の特徴は?

A: 本河内を拠点に、親類で構成されています。30~40代の若手中心です。

Q: これまで苦労されたエピソードは?

A: 引継書などはなく、一緒にやりながら覚えるものなので、父亡き後、一文銭の取り付け方がわからず苦労したことがあります。

Q: 日頃の稽古で心掛けていることは?

A: 足腰とメンタルの強化です。6月から走り込みと荷重をかけての歩行練習が始まっています。

Q: 地域とのつながりは?

A: ご近所の自治会長は、気軽になんでも相談できる心強い存在です。同じ



屈強な傘鉾持ちのみなさん。  
左から土井将嗣さん、太田涼棟梁、大串雄市さん



取り付けられた一文銭だけでも重さは10数キロ!! この一文銭も傘鉾本体とともに各踊町内に伝えられています。

### 【知っトク情報!!】

傘鉾のバランスをとるために、心棒の根元には一文銭に紐を通し300枚ずつ束ねられたものが10~13本も取り付けられて



稽古用の傘鉾で、暗くなるまで稽古は続きます。

### 〈傘鉾に関する豆知識!〉

「飾(だし)」…傘の上に乗った「飾」は、町や町名の歴史が表現されたもの、演しものに関係するもの、季節を表したものなど様々です。

「輪(わ)」…傘の周りをぐるりと囲んでいるのが「輪」。しめ縄、ビロード(丸輪)、蛇籠(じやかご)の3種類の輪があります。

「垂(たれ)」…傘の縁から垂らすのが「垂」。図柄、布地に趣向が凝らされ、長崎刺繍をあしらったものもあります。

見事な装飾が施された傘鉾は、1人で持つことのできる限界まで巨大化し、その重さはなんと120~130キロ以上にもなるそう。それを担ぐには、力だけでなく特殊な技が必要です。

## 令和元年 くんち瓦版 7月号 長崎くんちの舞台裏

発行: 令和元年7月11日  
長崎市地域支援室(中央地域センター内)  
長崎市桜町2番22号 TEL 829-1418

長崎市のホームページで、「くんち瓦版」に掲載できなかった取材内容や、昨年の「くんち瓦版」などを取り上げていますので、ぜひご覧ください!!



演しもの貼り絵  
市役所本館1階総合案内裏  
【まちづくりひろば】にて  
展示中!(7/2~7/31)

令和元年に出演する踊町は、今博多町(傘鉾・本踊)、魚の町(傘鉾・川船)、玉園町(傘鉾・獅子踊)、江戸町(傘鉾・オランダ船)、籠町(傘鉾・龍踊)の5ヶ町。

神輿守町は、上西山町上の切、上西山町下の切、下西山町、西山1~4丁目



今博多町

本踊

みこしもりちょう  
【神輿守町】  
上西山町上の切、上西山町下の切、下西山町、西山1~4丁目

ねんぱんちょう  
【年番町】  
榎津町、金屋町、新大工町、新橋町、諏訪町、賑町、西古川町、磨屋町、本紙屋町



玉園町

獅子踊



魚の町

川船



江戸町

オランダ船



籠町

龍踊

長崎くんちは、長崎の人々の暮らしに深く関わりのある伝統行事です。本番に向けて、自治会を中心に地域が一致団結し、様々な準備がなされています。くんちを通して、町の若者や子どもたちへ伝統を継承していくことで、地域のコミュニティが形成され、さらに深まっていきます。地域のまちづくりの一翼を担っている長崎くんち。

昨年に引き続き、この「くんち瓦版」では、くんちを通して地域を支える人々にスポットを当て、ご紹介します。

長崎くんちに関するお問い合わせはこちら

長崎伝統芸能振興会(長崎商工会議所内)  
長崎市桜町4-1 TEL095-822-0111



踊町の情報やくんちのスケジュール、鑑賞券の情報が掲載されています。

## 「ショモウヤレー！」 長崎くんち本踊のルーツ

博多からの商人たちが住んでいた本博多町（今の万才町辺り）に移住者が増えたため、新たな博多町として作られたのが今博多町。

寛永11年（西暦1634年）、最初の長崎くんちで、この地域に住む遊女2人が小舞を奉納したと伝えられています。以来、今博多町では本踊を演しものとしています。

## 自治会活動で得られた絆！ 「今博多町婦人部」



今博多町婦人部のみなさん  
（手前左から長門重子さん、相川信枝さん、奥左から吉田美佐子さん、野田明子さん、太田孝子さん）

## 日本の伝統文化を伝える はなやぎすずはつ 「花柳寿々初師」



花柳寿々初師  
今博多町のほか、馬町、万才町などの指導もされています。

稽古場にとどまらず、歴史文化博物館などでも、日本文化を伝える講座の講師を務めています。



花柳寿々初師匠の取材記事全文はこちら



本踊を陰で支える今博多町婦人部のみなさんにお話を伺いました。

Q：くんちでの婦人部の役割は？

A：奉納はいつも今博多町が最初になるので、本番では深夜から着付けや化粧が始まります。その際の食事の手配など、婦人部の人を中心に町内の女性総出でお手伝いしています。他にも手拭折りや、町事務所での御花の受け取りなども町の女性たちの役目です。

Q：普段の町内での婦人部の活動は？

A：10年ほど前に自主活動グループのサロン「ひまわり」（現在会員8名）を立ち上げ、手芸、体操、歌、認知症予防脳トレなどを行っています。これからも、おしゃべりを楽しみながら、サロンを続けていきたいです。

今博多町をはじめ、数々の踊町に関わってこ

れた花柳寿々初師匠にお話を伺いました。

Q：踊町との関係で大切にされていることは？

A：昭和60年に万才町を指導した時に、町内の

子どもたちに出演してもらったところ、大変喜んでもらえました。それ以降、未経験の方でも良いので町内の人に参加してもらおうようお願いしています。

Q：指導するうえで、心掛けていることは？



本踊  
ほんおどり

## 今博多町

いまはかたまち

## 一体の龍で表す重厚感！ 「静」と「動」の演出が見どころ

唐人船の梱包資材であった竹籠を作る職人が多く住んでいたという籠町。

龍踊は隣接する唐人屋敷から伝わったと言われ、龍踊を奉納する4つの踊町の中で、唯一江戸時代から伝わる歴史を誇ります。籠町の財産として、龍踊は地域の方の手で大切に守られています。

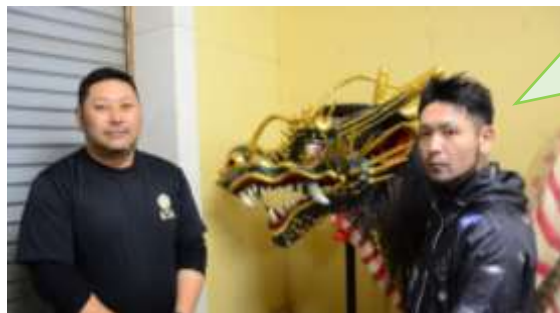


龍踊  
じゃおどり

## 籠町

かごまち

## 町のかげがえのない宝を守る 「籠町自治会青年部」



青年部長の寺崎さん（右）と執行部副部長の平野さん  
お二人は梅香崎中学校の同級生

龍体を担ぐ龍衆（じゃしゅう）には籠町以外からも参加があり、昨年からは龍衆の方と町内の住民との交流を深めるため、夏祭りを始めました。龍踊を通して、地域の輪が広がっています！



うろこを縫い付ける作業をする龍衆のみなさん

龍踊は、不老長寿の源とされる月（玉）を龍が追う様を描いています。踊りの見どころは、【静】玉を探す様子の「玉探し（ずぐら）」→【動】玉を見つけ身を躍らせる「玉追い」へと動きが切り替わるところです。

また、今年の奉納踊りに登場する龍は新調したもので、その龍体は龍衆の方たちや自治会婦人部のみなさんで手作りしたもの！一体の龍に使用するうろこは12種類8千枚で、7年前から作ったうろこの数は、補修用も含め全部で1万4千枚にも！毎日のように公民館に集まり作業してられました。



## 【知っトク情報！！】

龍は雨雲を呼び、雷鳴を招くとも。龍衆は黒い衣装で黒雲を表し、腰から下げる黄色い布が稲妻を表現していま

手作りした「うろこ」と「座布団」（朱色の輪）。座布団は龍体と龍衆が握る棒とのつなぎ目に縫い付けて使います。